

三徳開教110年

今月のご法話

法音

福祉に生きる

法音寺の伝統

平成29年
8月号 No.574

日蓮宗
法音寺





一人が一人を

是非一人は

是非一人は、仏となれる人に導きましよう。
法華経には、一人を導く功德は廣大である
とあります。

その一人が、他の人を導く功德が大きい
のです。

ついに一人を導く人が仏となります。

一人を導く人が極楽に住む人となります。

一人一人が極楽に住む人、仏になるのです。

御開山上人御遺訓『おりにふれて』

月刊・法音

平成二十九年八月号「574」

■目次■

【信仰の指針】利他

【朝のこない夜はない】

福祉に生きる法音寺の伝統

山首 鈴木正修

2

■講日のご案内

■有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

■特別企画・聖の教え（二十）

■このほの記 孟蘭盆のこと

■読者の声 松波千代子（二宮支院）

■のりのもと 西に東に 転法輪・支院だより

■法音寺のホームページが新しくなりました！

■福祉のひろば ニコニコ子育て〜保育の現場から〜③

■福祉に生きる 駒方保育園・光徳保育園・天王保育園の実践

■日本福祉大学・「ふくし減災」研究の拠点を設置

■賛助員ご芳名

■幸せの種まき／編集後記

■連載まんが・ひまわり・56 うわさ

■法音寺関連書籍のご案内

■法音寺の社会福祉・教育事業

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま

表紙写真・ハスの花

掲載写真

表紙・信仰の指針・3〜17頁…梅田雅臣氏撮影

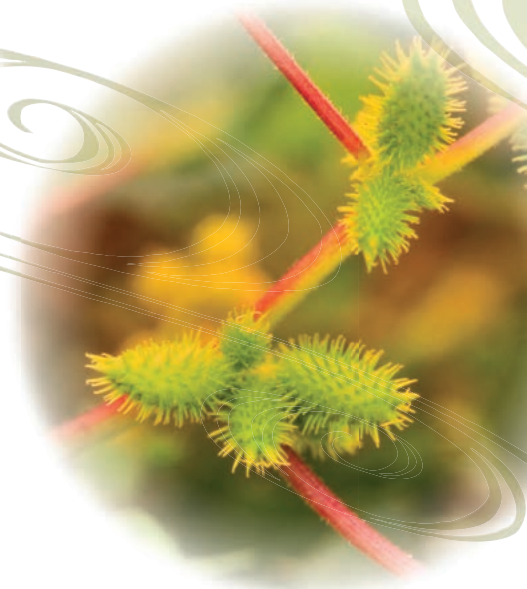
2頁…加納将人氏撮影

信仰の指針

利^り他^た

人の幸福を願っていますか

日教五



オナモミ



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

福祉に生きる法音寺の伝統

『法音』七月号に日本福祉大学付属高等学校の生徒さんの作文が掲載されました。お読みいただいた方も多いと思いますが、実は今年の春、新入生全員に講演をさせていただいた時の感想文が届けられたので、それを『法音』に載せてもらったのです。昨年もやはりそうでしたが、なかなか良い文章がたくさんありました。

講演のテーマは『創立者・鈴木修学先生』のことでした。『日本福祉大学を創った鈴木修学先生の物語・日本の福祉を築いたお坊さん』という本が中央法規出版から出ていますが、その本を新入生全員に法音寺から差し上げていて、それを題材としてお話しさせていたのです。ちなみにこの本は、大学にも専門学校にも配布されていて、その年度の新入生は読んでくれると思います。



お話の中心は御開山上人の「救ライ活動」です。御開山上人の取り組まれたことの中で、ライ病患者さんのお世話をされたことが一番特筆すべきことだと思いますので、そのことを中心にお話ししたわけです。ライ病のことを今は「ハンセン病」と言っていますが、法律上の文言は「ライ」が多く使われていますので「ライ」という語を使わせていただくことを最初にお断りしておきます。

まず全員に「皆さん、ライ病、またはハンセン病のことを知っていますか？知っている人は手を挙げてください」と聞いたところ、誰も手を挙げませんでした。知っている生徒はゼロでした。実はその少し前に、昭徳会の新入職員に同じような質問をしたのですが、やはりゼロでした。ですから、これはちゃんと話ししておかなければ……と思います。

皆さんご存知のように当時、大正初期ですが、杉山先生



は、世の中で一番かわいそうな人はライ病的だ。法華經を信仰する者はまず、いの一番に救いの手を差し延べなければいけない。とおっしゃっていました。ライ病は単なる重い病気とか、怖い病気というだけでなく、世の中からもすごい「差別」を受けていたからです。そのことを今私がおもに、高等学校の生徒も昭徳会の新人職員もみんなが知らないというのは逆の意味で、ありがたい世の中になったんだ。ということなんです。若い人みんなが知らないということは、差別を知らない時代になった。ということが言えると思うからです。

知らない。ということには別の問題があるかもしれない。だが、差別する意識がなくなっているとすれば、ありがたいことだと思ふのです。

当時、ライ病は「空気感染する」とか「遺伝する」と言われました。あるいは、天の刑罰を受けた。という意味で「天刑病」とか、前世の業が災いした「業病」などと



も呼ばれていました。家族の中から一人ライ病人が出ると、一生涯座敷牢に閉じ込めたり、また家から追い出して戸籍から抹消することもあったそうです。家族の中に病人がいると「ライ病の家系」と決めつけられ、家中の者が周りの人から嫌われ、排斥されてしまうのです。ですから隠すしかなかったのです。そうして居場所のなくなった人は浮浪し、やがて神社とかお寺の境内にたむろして乞食するしか生きるすべがありませんでした。家族のことを思っ自ら名前を変え、出身地も偽り、結局死ぬまで、たとえ親兄弟が死んでも家に帰ることすらできませんでした。

明治後期のことですが、身延山にも浮浪病人が大勢いたそうです。その人たちを見て、どうにかしてあげなければと手を差し延べられたのが綱脇龍妙上人です。綱脇上人が若い頃、身延山に参詣された時、そういう人たちが大勢いて、一人の若者が泣いてすがり、助けを求めてきたそうです。その人をそのまま捨てて立ち去ることはできず、



お題目を唱えていたら、日蓮聖人から「何とかしてやれ」と言われたように聞こえたといひます。天耳というものでしよう。その天耳によって明治39年、綱脇上人は身延深敬病院を始められたのです。日本人として初めての「救ライ活動」と言われています。「ライ予防法」という法律の施行される前年のことです。

とにかく世間から忌み嫌われ、差別・虐待を受けていた人々に対して杉山先生は一生懸命お世話をされました。昔の本を見ますと村上先生と、杉山先生の姪にあたる養女みつさん（後の御開山上人の奥さま）とその妹の千代子さんの四人で、東京や静岡県御殿場、また熊本県にあったライ療病院に赴かれ、今で言うボランティア活動に励まれました。患者さんが傷口に巻いていた、膿のいっぱい付いている包帯を洗い、その包帯を再利用するときには、片方を口にくわえて患部を巻かれたというのですから、本当にすご



いことをされたものです。

「空気感染する業病」と嫌われていた病気です。その病気を患った患者さんの膿のついた包帯に、さわるだけでも手は引っ込んでしまうと思うのですが、それを口にくわえられたのです。すごいことを、この四人の方はされたのです。その上、病室はすごい臭気が漂っていたといえます。ある時、みつさんがその臭いにひるみ、手で鼻を覆ったところ、杉山先生にひどく叱られたそうです。嫌ってはいけないと戒められたのです。

お伴をした村上先生はお医者さんとして、時に診療にあたり、みつさんと千代子さんは看護師として、杉山先生の教えられた通りに患者さんのお世話をされたのです。この頃の仏教感化救済会・杉山先生の活動は世間からも注目され、当時の読売新聞にたびたび掲載されました。

杉山先生は常々、ライ病に関してだけでなく、同じように当時「不治の病」と怖れられていた肺病に関しても、因



縁がなければうつることはないと言われていると聞いています。ですから救済会には、胸を患った患者さんも何人かおられたということですが。そういう人は病気を信仰で治すために、救済会に来ておられたのです。そうした人々を、会にいるみんなでお世話されていたのです。

「因縁がなければうつらない」と言われても、因縁は目に見えないので困ってしまった当時の人は、病気を嫌ってはいけないと思うようにしたそうです。どんな病気でも嫌うとその因縁を呼び込むから」というのです。実際そうだとおもいます。不思議なもので何事も嫌いだと思おうと逆に寄ってくるものです。また当時の人は、お世話をする事によって因縁が消滅するとも考えていました。

上野支院に犬飼妙淳法尼という方がおられました。村上先生の時代に入信され、熱心に信仰されました。当時の大乘修養団には、臥竜山に農場と修養会館のようなものがあり、そこにもライ病の人々がおられたようです。ある



時、そこへ犬飼法尼がお子さんを連れて行かれました。するとその廊下が、まるでワックスをかけたみたいにテカテカに光っていたそうです。『どういふことですか？』と聞いたところ、『ライ病の人たちの膿が廊下に落ち、その上をみんなが歩くものだから自然にテカテカになった』ということでした。

当時は皆さん着物を着ておられましたから、座ると羽織の裾にそのテカテカが付きます。法尼が気づくと、連れていたお子さんがその裾を口にくわえていたそうです。びっくりした法尼でしたが、そこで子どもをとがめると、嫌ったことになります。その心をぐっと抑え、お題目を唱えられたということです。ライ病は人々から本当に怖れられていたのです。

ライ病がなぜ「ハンセン病」と言われるようになったかという、ライ菌を発見した人がアルマウエル・ハンセン



という人だったからです。この人の名前をとってハンセン病と呼ばれるようになったのですが、この病気は聖書や仏教経典にも出ています。ということは、何千年もの昔からあって、人々を苦しめてきた病気だったということがわかります。

この病に関連した日本における歴史を少し辿ってみようと思います。

明治40年、「ライ予防に関する法律」ができました。日本が日清・日露の大戦に勝利して先進国の仲間入りをするのと、イギリスをはじめ諸外国の人が来るようになり、その人たちが町中を浮浪して歩くライ病の人を見て、先進国の仲間入りをした日本なのに、これではいけない。何とか対策を取るべきだ」という声が上がりが始めたものですから、法律ができたのです。ちなみにその二年後、杉山先生の仏教化救済会が発足しています。

その後も差別は続き、昭和4年、各地に「無ライ県運動」



が起こりました。ライ病患者を自分達の住む県から無くそう、というものです。無くそう、というのは、治そう、お世話をしよう、というのではありません。追放しよう、ということなのです。これが全国各地で非常に盛んになり、宗教団体なのに大々的に「追放運動」に加担した教団もありました。ある仏教教団の宗門誌にこんなことが書かれてありました。

「単に一個人の破滅ではない。一人出家すれば九族天に生まれるというが、一人ライに感染すれば九族地獄に墮するのである」

この教団は随分後のことですが、大々的に謝罪文を新聞に出しました。当時はそんな時代だったのです。

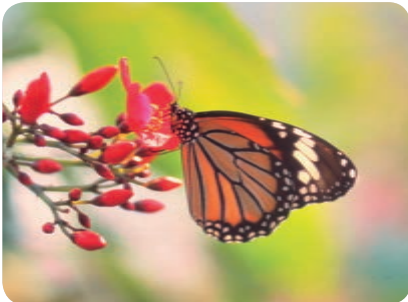
御開山上人がみつさんと結婚され、杉山先生の命を受けて九州・生の松原のライ療病院に赴任されたのはちようどこの頃のことです。現地で二年半、悪戦苦闘の末、最後は身延深敬病院の綱脇上人に運営を引き受けていただき、御



開山上人が名古屋に居られたのは昭和5年12月のことでした。「ライ予防法」制定の直前です。ちなみにその後も綱脇上人のお付き合いは続き、御開山上人は身延山に参詣されるたびに深敬病院を訪れられていたということです。古い記録ですが、昭和7年にご夫妻で赴かれ、慰問されたという「芳名録」を見せていただいたことがあります。

昭和6年、完全に患者を隔離しなければいけないという「ライ予防法」が制定されました。患者さんたちは強制的に集められ、山奥とか離れ小島に作られた療病院に収容されることになりました。そこで治療を施されたといいますが、実際はとんでもないことも行われました。子どもが産まれるとライ病が増えるということで、断種手術をされたり、少しでも院の方針や職員に逆らったり、脱走を企てる「独房」に入れられたり、非情な差別・虐待を受けたのです。

昭和18年頃、プロミンという特效薬が開発され、治療が



可能になりました。日本で使用が開始されたのは昭和22年です。この時点で医学的には隔離は必要なくなつたのですが、その後もずっと続きました。この「ライ予防法」がなくなつたのはなんと、平成8年です。それまでこの法律は生きていたのです。

数年前に、東京の多摩全生園という施設の入園者自治会長をしておられた佐川修さんに、法音寺で講演をしていただきました。少年の頃に療病院に入れられ、現在8歳を越えておられると思います。その佐川さんが強調しておられたのは、ライ病は感染しない、ということでした。「これまで関係したお医者さんも看護師さんも、誰もうつっていません。非常に感染力の弱い病気で、空気感染なんてありえません」と、はつきりおっしゃいました。

その後、皆さんご存知と思いますが、ライ予防法は人権蹂躪、憲法違反のтонでもない法律だつた、ということだ裁判（ライ予防法違憲国家賠償訴訟）が起こり、国が



ライの人々（ひとびと）に賠償（ばいしょう）しなければいけない（い）という判決（はんけつ）が下（くだ）りました。その判決（はんけつ）を受けて（う）当時の小泉（こいずみ）総理（そうり）大臣（だいじん）が、控訴（こうそ）はしない（し）と決断（けつだん）し、判決（はんけつ）はそのまま受け入れ（う）られました。その時（とき）、患者（かんじや）さんたちが「初めて（はじめて）人間（にんげん）として認め（みと）られた」と言（い）われた（わ）ことがとても印象（いんしょう）に残（のこ）っています。

その後（ご）、最高裁判所（さいこうさいばんしょ）が謝罪文（しゃざいぶん）を出（だ）しました。当時（とうじ）「隔離（かくり）裁判（さいばん）」が行（おこな）われていた（わ）のです。つまり、ライ病（びょう）の人（ひと）が罪（つみ）を犯（お）すと普通（ふつう）の裁判所（さいばんしょ）ではなく、隔離（かくり）した場所（ばしょ）で裁（さ）かれていた（わ）のです。その明（あ）らかな差別（さべつ）に對（たい）して最高裁判所（さいこうさいばんしょ）が謝罪（しゃざい）した（わ）のです。

このよう（よ）うに歴史（れきし）を辿（たど）ってみると、ライ病（びょう）がどれほど怖（おそ）れられ（ら）れ、差別（さべつ）を受け（う）けてきた（き）かがおわかり（わ）かると思（おも）います。そして世間（せけん）がどうあろう（ら）とも、そうい（い）う病氣（びょうき）に對（たい）して杉山（すぎやま）先生（せんせい）も村上（むらかみ）先生（せんせい）も御開山（ごかいさん）上人（じょうにん）ご夫妻（ふさい）も、真（ま）の慈悲（じひ）の手（て）を差し延（の）べてこられた（わ）ことは本當（ほんとう）に尊（とと）い（い）ことだ（だ）と思（おも）います。



「ライ予防法」が廃止され、裁判が結審して小泉総理が「控訴せず」と断を下し、最高裁判所も、さらに、差別のお先棒をかついでいた仏教関係者・教団も謝罪しました。そのライ病の人々に対して法音寺の先師は百年以上も前から、ずっと救いの手を差し延べてこられたのです。私が出たわけではありませんが、本当に誇らしい気がいたします。杉山先生は、困っている人はみんないらっしやいぐとおっしゃいました。法音寺はそういうふうな昔から、その時々々の困っている人々のために尽くしてきました。これからも頑張っていきたいと思えます。どうぞ御支援を宜しくお願いいたします。

※故・浅井千代子刀自：『鈴木修学先生の南無妙法蓮華經』の著者・元身延

山大学学長・文学博士 浅井圓道上人の御母堂



良い教えの話を聞きましょう。

全国の法音寺各支院・布教所では毎月の講日の中で
三徳の教えを聞くことができます。

ぜひ講日にご参詣いただき、
教えを心にしみ込ませましょう。

法音寺本山は毎月7日、17日、27日が講日です。

◆今月の山首上人さまご親修日程

西春支院	8月2日(水)	孟蘭盆会	一宮支院	8月5日(土)	孟蘭盆会
大阪支院	8月6日(日)	ほうろく加持	上野支院	8月10日(木)	孟蘭盆会
静岡支院	8月12日(土)	孟蘭盆会	岡山支院	8月15日(火)	孟蘭盆会

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	6日・15日・26日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市長崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	6日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・26日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825
佐屋支院	4日・11日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0586)72-7208
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0568)22-5813
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市中九之坪東ノ川20	☎(058)245-2939
岐阜支院	4日・12日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)388-2740
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(0584)78-4854
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎(0575)22-0776
関支院	3日・22日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)23-3771
平賀支院	6日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)65-3933
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(059)352-3633
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(0595)21-0127
上野支院	1日・10日・21日	伊賀市上野向島町3475	

☎ご連絡は本山寺務局へ

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	11日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	13日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
福井布教所	19日	あわら市春宮3-28-2	☎(0776)73-5234
和泉支院	5日・11日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(072)466-3112
神戸支院	12日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)42-0175
岡山支院	6日・8日・15日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	5日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	1日・13日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	12日・27日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	5日・16日・27日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	11日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	6日・15日・20日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(092)44-5445
筑後布教所	13日・27日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	6日・27日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・29日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	27日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

特別企画

聖の教え

(二)

因果の二法〔因・縁・果・報の事〕

〃憂きこと身の身にあらわれしことはみな

われ蒔きおきし種とこそ知れ〃

宗玄大徳御詠

◆ 經 典

◆ 佛の説きたもう苦諦は、眞實にして異なることなし。若し衆生あつて、苦の本を知らず、深く苦の因に著して、暫くも捨つること能わざる。是れ等を爲ての故に、方便して道を説きたもう。諸苦の所因は、貪欲これ本なり。若し貪欲を滅すれば、依止する所なし。諸苦を滅盡するを、第三の諦と名く。滅諦の爲の故に、道を修行す。

妙法蓮華經・譬喩品 一〇九頁

◆ 御 書

◆ 事の心を案ずるに、前生に法華經誹謗の罪なきもの、今生に法華經を行す。これを世間の失に寄せ、或は罪なきを怨すれば、忽ちに現罰あるか。修羅が帝釋を射る、金翅鳥の阿耨池に入

る等、必ず返つて一時に損するが如し。天台云く、『今我が疾苦は皆過去に由る、今生の修福は報將來に在り』等云云。心地觀經に云く、『過去の因を知らんと欲せば、其の現在の果を見よ。未來の果を知らんと欲せば、其の現在の因を見よ』等云云。不輕菩薩は過去に法華經を謗し給う罪身にある故に、瓦石をかほると見えたり。』

開目鈔・下 八二九頁

◇業因は、殺生・偷盜・邪姪・飲酒・妄語の上、邪見とて、因果なしという者此の中に墮つべし。邪見とは、有人の云く、人飢えて死ぬれば天に生るべし等と云云。總じて因果を知らぬ者を邪見と申すなり。世間の法には慈悲なき者を邪見の者という。當世の人人此の地獄を免れがたきか。

顯謗法鈔 四五八頁

◇釋尊の因行果徳の二法は、妙法蓮華經の五字に具足す。我等此の五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り與え給う。四大聲聞の領解に云く、『無上の寶珠求めざるに自ら得』云云。

如來滅後五五百歲始觀心本尊鈔 九五四頁

◇陰徳あれば陽報ありと申して、皆人は主にうたえ、主もいかなぞおぼせしかども、わどこの

正直しょうちきの心こころに、主しゅの後生ごしょうを助たすけたてまつらむと思おもつ心強盛こころかうじょうにして、修練しゅれんを修すすれば、かかるともあづからせ給たまうぞかし。此これは物もののはしなり、大果報だいかほうは又また來きたるべしと思食おぼしめせ。又また此この法門ほうもんの一行ぎやういっかなる本意ほんいなき事ことありとも、見みず聞きかず言いわずしてむつばせ給たまえ。大人だいにんには祈いのりなしまいらせ候まうらうべし。

陰徳陽報御書 二二五三頁

◇惡あくの中なかの大惡だいあくは我わが身みに其その苦くを受うくるのみならず、子こと孫まごと末七代すえだいいちまでもかかり候まうらういけるなり。善ぜんの中なかの大善だいぜんも又またかくの如ごとし。

孟蘭盆御書 一五四九頁

◆安立大法尼・因果の教え

養子ようしの失敗しつぱいで多大ただいな損害そんがいを蒙こうむり、養子ようしを怨うらんでいる資産家しさんかへの教化きょうけ あなたの家いえのご失敗しつぱいは、決けつしてご養子ようし一人ひとりのご失敗しつぱいではありません。皆みなさんの過去かこならびに現在げんざいにおける罪障ざいしょうと申もうすものがご養子ようしの一身しんに集あつまってきたもので、ついに、することなすことがご失敗しつぱいとなったのです。ですからそれは、お家うちの方かたすべてのご共同責任きょうどうてんせきにんであります。

すべて人間にんげんは罪障ざいしょうと申もうすものが必ずあります。それは過去かこ・現在げんざいにおける各自かくじのなした罪業ざいごふです。過去かこのことは知しることはできない、と誰だれもが心得こころえておりますが、現在げんざいに於おいても、自分じぶんで罪つみと知しらずしてなしつつあることが、積つもり積つもってこの罪業ざいごふとなるのです。実じつに「過去かこの

因を知らんと欲せば、其の現在の果を見よ」と日蓮聖人も言われましたが、人々の現在の境遇に種々様々な差別のあるのは、多くは、この過去の因によるものであります。

過去・現在・未来、三世の因果の理法は終始一貫して継続するものです。人にしてもし、悪因によって現在に悪果に苦しむとしたら、この悪因の綱を切断しなければ、いかに奮闘努力しても決して成功しません。

この悪因を断ずる利剣は妙法に依る以外にありません。火を消すは水により、硝子を切るには金剛石に限り、木材を切るには鋸を用いる通り、皆それ相応の道具を用いるのと同様です。

しきりに災厄に遭う人、不幸・不運を嘆く人、貧困に苦しめらるる人、病魔に侵さるる人等、数え上げれば種々様々であります。要するに人間として安穩に現在を送り、未来は善き処に到らんことを希う人は、一日も早く妙法に帰依して常に慈悲・至誠・堪忍の三徳を守り、行住坐臥に妙法蓮華経を唱えるのです。

自己本有の仏性を磨き、人の、人として踏むべき大道をゆくべきことは、実に、人生一日も欠くべからざるの所業であります。

父母と呼び、夫婦となつて現在そのように生存するも、決して偶然ではありません。皆それぞれその因縁があるからです。自分の心の迷いから罪のない人を怨むことは恐ろしいことです。日々信仰を怠ることなく心得てやってゆけば、家運も次第に開けて、家庭も円満となること請

合あいいです。心しん身しんの病やまいを癒いやす大良薬だいりょうやくは、真しんに妙法みょうほう以外いがいにはありません。

大乘山法音寺三徳開教百年史（1） 二六六頁

◆宗玄大徳

小姑こじょうに抵抗ていこうされて腹はらを立てたているご婦人ふじんへの教化きょうけ 先日せんじつあるご婦人ふじんが来こられて「私わたくしは毎日腹まいにちはらはらが立たって怒おこれてなりません。どうぞこの怒おこれる因果いんがを消滅しょうめつする方ほう法ほうを教おしえてください」と言いわれました。そこで、「どういうことか一番怒おこれるのでしようか」と尋たずねますと、そのご婦人ふじんは「小姑こじょうが私わたくしに対して事毎ことごとに抵抗ていこうするのです。たとえば、私の成なさぬことを私わたくしが成なした如ごとくに言いい張り、ちよつとした言葉ことばでもあたかも針はりで刺さすように言いいますので、もうお暇ひまをもらおうか、別居べつきよでも致いたしたらとさえ思おもうのですが、今いまさら暇ひまもとれず、別居べつきよすることもできません。この頃ころでは小姑こじょうの顔かほを見るだけでもいやな気がしてなりません。どうぞ私の心こころが落おち着ついて堪忍かんじんのできるように教おしえてください」と涙なみだをふきふき申もうされました。

そこで私わたくしは申もうしました。「よくお出いでくださいました。堪忍かんじんを破やぶることは悪わるいことだと、あなたご自身じしんで自覚じかくなさってお出いでになったのでしよう。それは誠まことに結構けっこうなことでしたが、もう一歩いっぽ進すすんで、その怒いかりを喜よろこびと代かえることのできるような悟さとりをせねばなりません。

妙法みょうほうのありがたいことはここです。あなたはそのいやな小姑こじょうさんを悪わるいと思おもわれますが、と

もかくいやだと思ふのは悟り違いです。いやだと思ふことが重なれば遂に憎いと思ふようになります。他人にいやな思いをさせる行ないをする人もよくないが、憎む悪因の分量と、憎まれて怨む悪因の分量を計って見ますと、怨まれるようなことをする者よりも、怨み憎む悪因の方が数百倍も多いのです。

この因果の理法を人々は知らぬから、怒りをなして徳を損じ、他人を憎んで悪因を重ねるのです。そのため遂には自業自得で病氣や災難等に苦しめられることになります。

そこで第一に、腹立つことは悪いことだと悟って堪忍をせねばなりません。自分一人なれば宜しいけれども、腹立つ時は必ず相手があります。あなたの場合はその小姑さんです。小姑さんは、もとよりあなたを憎もうとは思われぬのですが、経文に『悪鬼其の身に入る』とありますように、あなたの過去における悪い因果、即ち煩惱が小姑さんに乗り移ってあなたに反抗され、あなたの徳を損じ、悪果を増させるのです。あなたが損をなせることはあなたの煩惱です。小姑さんはあなたという人の煩惱に左右せられて、次第に悪因を積まれつつあるので、いわばお気の毒な方です。どうぞその理由を悟って、あなたがいやでたまらぬその小姑さんを気の毒だと思つてあげてください。

我が身に反抗する者を気の毒と思えということにはちよつと変なことですが、その理由が判ればなるほど、とうなずかれるであります。それ故にお気の毒だと思つたら、その小姑さ

人の喜ばれることをしてあげ、好きな物でも買って行って喜ばせてあげてください。

もとより小姑さんは悪人ではありません。小姑さんばかりが悪くありません。あなたにも、いやだと思ふ時には、小姑さんの喜ばれるような言葉もかけられず、不平の態度が表面に現われていると思います。かような理由で自分に対して反抗する人を愛し、喜ばせるようにすることがいわゆる『怨みに報ゆるに徳を以てす』と言われた古聖の訓語の通りであります。

よく皆さんに『堪忍と喜びを誓ってください』と申しますのは、かように怒りを喜びに代えることです。この実行を致しますと、六神通の中の漏尽通が働きます。自分に向かう相手を喜ばせればそこに善根が積めるので、自然に功德が得られるからです。その善根は直ちに自己の過去・現在の悪因縁を消滅する、無形的作用を及ぼします。他人から憎まれる悪因でも災難でも、皆その功德の大小に因ってそれぞれ差はあれども消滅し、初めてここに不幸変じて幸いとなるのです。即ち煩惱心を菩提心と変ずるのです。この作用を実地に成してゆくのを、漏尽通というのです。

功德を積まぬ人にはこの漏尽通はありませんが、ありがたいことには、徳を積むと同時に、すぐ漏尽通が働きます。あなたが私の申すことを了解されて日常実地に行なわれたならば、必ず腹立つこともなくなり、お互いに仲良く暮らすことができずよ」

このように話しましたら、そのご婦人の憂うつな顔がたちまち朗らかになって帰って行かれ

ましたが、その後その小姑娘さんと大層仲良くなられたことを聞きまして、心密かに喜んでおりました。次第であります。

村上先生御法話集(二) 九九頁

◆御開山上人

因縁果報の事 いろいろ『もの』というものは、それ一つだけでなく、おおくの他のものが相對して存在しておりますから、その相對するものとの關係によつてできるいろいろな影響、結果がでてまいります。それが「因・縁・果・報」であります。

因 ある一つのものにそなわっている働き。

縁 その働きの、他に及ぶ場合その周囲の境遇事情。

果 因と縁があいまつて生ずるその結果。

報 その結果がおよぼす働き。

たとえば、マッチを空気中でするとき、することが**因**で、その空気の中が**縁**で、その**因**と**縁**がそろつて火がでる、それが**果**で、その火が物を焼く、これが**報**であります。

また仏法修行で申せば、まなぶということが**因**で、仏ののこされた教えが**縁**で、修行をつみますと、**果**として智慧がそなわり徳がそなわる、その**報**として、一切の人をすくい、一切の人を利益するということになります。世の中には人間をはなれた他のものでも孤立しているとい

うものは一つもないのでありますから、おたがいの間に因縁果報の關係が生じて、たがいに影響をあたえあつてゆくのであります。

現代生活の指針 一六〇頁

釈尊の因行果徳の二法〔観心本尊鈔〕『釈尊の因行果徳の二法は、妙法蓮華經の五字に具足す。我等此の五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り与え給う』

お釈迦さまは仏であります。それゆえ仏としての万の徳をそなえていらっしゃるのです。しかし仏としての徳をそなえられたのは、長い間の修行として、よい行ないをし、善根を積まれたからであります。その修行せられたことが因であつて、徳は修行の結果としてえられたものです。

「因行果徳」というのはこのことです。われらも仏の境遇になりたいと思えば、お釈迦さまが仏の境遇になられた修行の方法を実行しましょう。そうすれば、仏としての徳がそなえられるのであります。その原因となる修行、仏としての徳をえる法、すなわち二つの法は妙法蓮華經の五文字に具足されているのです。この秘法をならいおぼえて実行しましょう。これが本當の信心です。

「成仏」すなわち仏の境遇をうることに疑いなしであります。

続・現代生活の指針 一八頁

◆日達上人・因果の教え

◎私共は^{わたくしども}どうしても心^{こころ}が狭^{せま}いから、人^{ひと}に辛い目^めにあわされるとすぐ人^{ひと}を怨^{うら}んだり怒^{おど}ったりして、また悪業^{あくごう}を重ねてしまうのです。経^{きやう}に「悪鬼入其身^{あくきにゅうごしん}」とあるように、自分^{じぶん}につらくあたる人^{ひと}、自分の妨害^{ぼうがい}をする人^{ひと}は、自分^{じぶん}の罪障^{ざいじやう}が鬼^{おに}となって相手^{あいて}の身^みに入り、その鬼^{おに}がそうさせるのです。因縁^{いんねん}によってそうなるのです。決して相手^{あいて}が悪いのではありません。 大白牛車・5 三〇頁

◎この世^よの中^{なか}はすべて、たとえどのよう^{やう}な些細^{ささい}なことでも、偶然^{ぐうぜん}ということはありません。夫婦^{ふうふ}・家族^{かぞく}の関係^{かんけい}もみな、過去^{かこ}世^せからの深い因縁^{いんねん}があったから、現在^{げんざい}そうなっているのです。今^{こん}世^せに於^おては苦しめられる一方^{いっぽう}であるかも知^しれませんが、過去^{かこ}世^せには、自分^{じぶん}が尽くしてもらうばかりであったかも知^しれません。また来世^{らいせ}には、逆^{さか}に自分^{じぶん}が相手^{あいて}を苦しめるようなことになるかも知^しれません。実^{じつ}に不思議^{ふしぎ}な、広^{ひろ}い世界^{せかい}に私共^{わたくしども}は生きていますのであります。

大白牛車・5 六二頁

◎今日^{けふ}どうい^いう因^{いん}を作るか、それによ^よって明日^{あす}からの未来^{みらい}が決^きまるとい^いうことを、因果^{いんが}の二法^{にぽう}は教^{おし}えているのです。過去^{かこ}の因^{いん}に捉^{とら}われてくよくよ悩^{なや}んだり、明日^{あす}どうなる。来^{らい}年^{ねん}は。再^{さい}来^{らい}年^{ねん}は。と^とい^いうよ^ような取越^{とりこし}苦^く勞^{らう}をする必要^{ひつよう}はさらさらありません。今日^{けふ}これか^から^らい^いい因縁^{いんねん}を作^{つく}

てゆけばいいのです。

大白牛車・5 一一一頁

◎ いい人に出会い、嬉しいことがあれば、過去世に善い因縁が積まれていたのですし、悪い人に出会い、困ったことに出くわすのは、過去に自分が作った罪業の報いを受けているのです。今起きている状態はすべて、自分の因縁によってそうなっていることを知らなければなりません。

大白牛車・6 八三頁

◎ 前世の業を土台に、今世、自分が作った業がプラスされていろいろなことが起こるのです。いいことも悪いこともみな、もともとある因に縁が加わって、果が現われるのです。因はもともと自分が持っていたもの、縁は自分が出会い、行なったことです。果としての現われはすべて、自分に原因のあることを知って頂きたいのです。

大白牛車・6 八三頁

◎ 因縁の因は本となるもので、自分が作り、自分が持っているものです。縁は、その因の現われる引金です。強く現われたり弱く現われたりします。火の燃えている所に油をかければ燃え広がりますが、火が燃えていても燃えるものを加えなければ、それ以上に広がることはありません。水をかければ消すこともできます。因は縁によって現われ方が異なるのです。

◎常日頃、怒ることが習慣のようになっていると、一度は堪忍できても二度、三度と行なえませんが。無意識のうちに怒ることが先に立ってしまうからです。とにかくいいことをいっぱいして、悪い習慣よりも、いい因縁を心の蔵に詰め込むことが大切です。三徳が習慣のようになるとしたものです。無理に堪忍しようと思わなくても、自然にできるのです。

修羅が帝釈を射る 修羅が帝釈天と闘って、帝釈天を
弓で射たところが、直ちに自分が穴から落ちてしまっ
たという。

金翅鳥の阿耨池に入る 龍を食するという金翅鳥が龍
と闘ったところが負けて、阿耨池という池に落ちてし
まったという。

※いずれも、自分の分をわきまえず、正しい者に対して仇をするならばその報いが必ずくるといふことの譬え。

※本稿中、一部内容・文言にその時代及び、教学上特有の記述が見られますが、時代背景を鑑み原文のまま転載しました。読者諸賢のご賢察を願うものであります。

とくのはの記

盂蘭盆のこと

お盆の時期になると、お寺の法要で日蓮聖人の『盂蘭盆御書』という御遺文の一節が読まれます。

悪あくの中なかの大悪だいあくは我わが身みに其その苦くを受うくるのみならず、子こと孫まごと末七代すえ だいまでもかかり候そうらいけるなり。善ぜんの中なかの大善だいぜんもまたまたかくの如ごとし。目連尊者もくれんそんじやが法華経ほけきやうを信しんじまいらせし大善だいぜんは、我わが身み仏ぼつになるのみならず父母仏ふぼぼつになり給たまう。上七代下七代かみむりやうしもむりやうしも、上無量生下無量生かみむりやうじやうむりやうじやうの父母等ふぼたち、存外ぞんがいに仏ぼつになり給たまう。乃至子息ないししそく・夫妻ふさい・所従しよじゆう・檀那だんな・無量むりやうの衆生しゆじやう・三悪道さんあくどうを離はなるのみならず、皆初住妙覚みなしよじゆみやうかくの仏ぼつとなりぬ。故ゆえに法華経ほけきやうの第三だいにいわく、

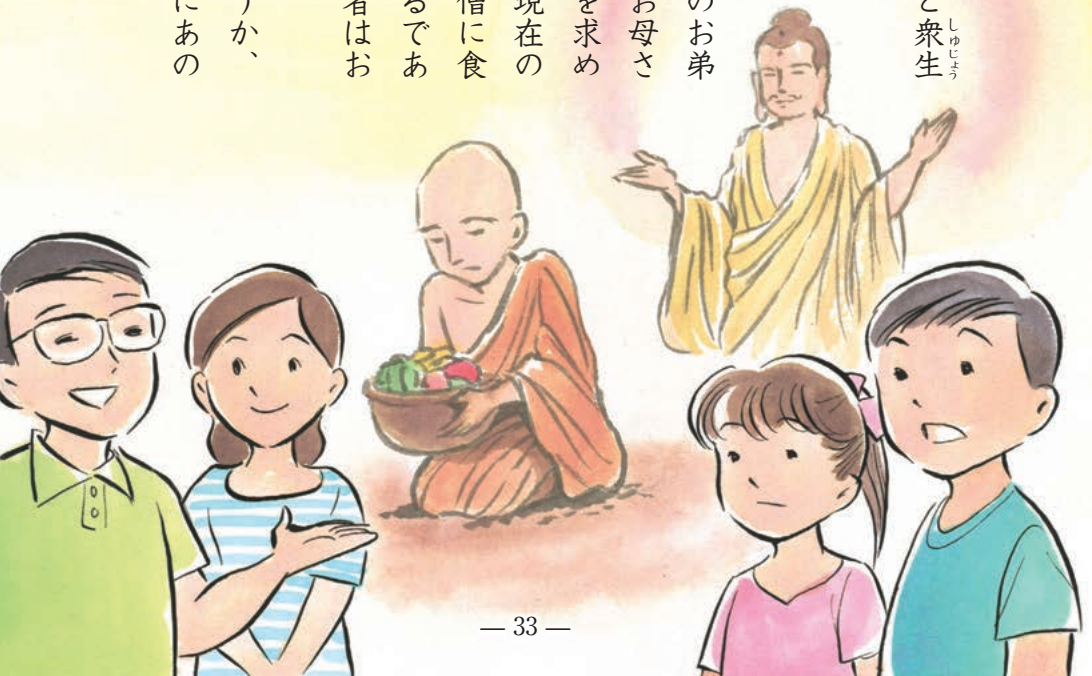


『願わくば此の功德を以て、普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆共に仏道を成ぜん』 (盂蘭盆御書)

「お盆って、そもそもどういことなのかな…」

「『盂蘭盆経』というお経があつてね…。お釈迦さまのお弟子の中で、神通第一と言われた目連尊者が、天眼でお母さんが餓鬼道に落ちていたのを知り、お釈迦さまに救いを求めたんだ。するとお釈迦さまは『(旧暦の) 7月15日 (現在の8月中旬頃) に僧の集まりがあるので、真心を込めて僧に食べ物をご供養すれば、母親を餓鬼道の苦しみから救えるであろう』と答えられた。そこで、その言葉に従い目連尊者はお母さんを成仏させたというお話が由来なんだ」

「ご先祖さまは、子どもや孫達が仲良くしているかどうか、いつも心配してくださっていて、年に一度お盆の期間にあの世から帰ってきてくださるのよ」



「きゅうりとなすに足をつけて仏さま（お仏壇・精霊棚）にお供えするのはなぜなの？」

「きゅうりを足の速い馬に見立て、あの世から早く家に帰って来てください、ナスは歩くのが遅い牛に見立て、少しでも長く家にいてゆっくりお帰りください」というご先祖さまへのメッセージになっていっているのよ。だから、ご先祖さまが早く家に帰ってきて、長く滞在していたくなるような、家族仲良く暮らしている姿を見ていただくようにしないとね」

「そうだね。家庭内がギクシヤクしていると居づらいから、もう来年から帰るのはやめよう、ってご先祖さまに思われないうちにしようね」

「お盆の期間には、お寺のお上人が、棚経 に来てくださるんだよ」

「棚経 って？」



「お上人が一軒一軒の家をまわって、お仏壇・精霊棚の前でお経をあげてくださることを、棚経ツツって言うんだよ」

「ご先祖さまもお経を聞いて喜んでくださるの？」

「お寺では、お経は生きている私達のためにあるツツって言うっておられたけど…」

「生きている間に善い行いをするための修養法としてお経があるのです。いくらお経を読んでも実行が伴わなければ何の意味もありませんツツ」

「そうか、ご先祖さまはお経に書かれてある通りに、今を生きたる私達が日常の心遣いを反省し、善い行いを心掛けている様子を見て、喜んでくださるんだね」

「家族はお互いに仲良くして、ご先祖さまに安心していただきましょうね」



読者の声

ご法に感謝

松波千代子（一宮支院）

平成27年12月18日、私をご法に導いてくださった方が亡くなりました。20年ほど親しくしてくださいました。とてもあたたかな方で、困ったことがあると相談にのってください、ご法の話をよくさん聴かせてくださいました。

その方の四十九日の追善供養にと、写経を書かせていただきましたら、なんとも言えない喜びが込み上げ、涙があふれてきました。

「この喜びを皆さんにお分けしたい」

そんな想いかられたことをお上人にお話ししたら、「仏さまはいつもその世界にいらっしゃるのですよ」と教えていただきました。

その年、更年期障害からうつ病（妄想癖）にかかりました。頭も身体も自由がきかず、毎日何もしたくなって、仕事も失敗してばかりで、終始何かに怯えている状態でした。心療内科を受診し、薬を飲んでも楽にはなりません。逆に倦怠感などの副作用に悩まされました。

そして年が明け、支院の講日に参詣させていただいたら突然トンネルから抜け出られた感じがしてうれしくなりました。数カ月ぶりに笑みがこぼれたのです。いつもと変わりなく家事ができることが、こんなにもありがたいことだとは思いませんでした。

ガスの検針に来られた方が、そんな私に「今だから言えるけど、この3カ月間様子が変わったので心配していたんですよ」と声をかけてくださいました。私は「実は心の病にかかっていて、薬も効かなくて苦しい思いをしていました。でもお寺のお陰で治ったのです。笑顔になれたのです」とお答えしました。

このことがご縁となり、その方は娘さんのことで悩んでいることを話してくださいました。手元にあった『法音』を手渡すと「読んでみるわ」と受け取ってくださいました。そして後日「お寺に行ってみたい」と言われたので、支院の講日にご案内しました。驚いたことに、お上人の前でその方が話されたことは、3カ月間私が味わった苦しみと同じものでした。その方や娘さんの気持ちが手にとるようになります。

その後「今までは娘が無理を言うのと、つい口を挟んでいましたが、お上人に『ただただ聴いてあげてください』と教えていただいたので、堪えて聴くことができました。お寺へ行った後、少し気持ちが軽くなったような気がしました」と話してくださいました。私は不思議なご縁をいただいたと思います、その方の先祖供養と消滅をさせていただきました。

これからも周りにいる方の苦しみが少しでも和らぐようお題目を唱え、徳積みをしていきます。

苦しとてこころせまくも思うまじ

みなよろこ
皆喜びの種子にしあれば

《御開山上人御詠》



YouTube に 法音寺チャンネルができました。

<https://www.youtube.com/user/houonjimovie>

ホームページから、またはYouTubeサイトで

右のQRコードからもアクセスできます ▶▶▶



法音寺の紹介や歴史、活動記録を
ご覧になれます。

法音寺公式 facebook で『一日一言』配信中!!

<https://www.facebook.com/法音寺-1746501028898172/>



Facebookのアカウントをお持ちでない場合

1. www.facebook.comを開きます。
2. 登録フォームが表示された場合は、名前、メールアドレスまたは携帯電話番号、パスワード、生年月日、性別を入力します。フォームが表示されない場合は、[登録する]をクリックし、フォームに入力します。
3. [登録する]をクリックします。
4. アカウントの作成を完了するには、メールアドレスまたは携帯電話番号を確認する必要があります。

日蓮宗 大乗山 法音寺の ホームページが 新しくなりました！

<http://www.houonji.com/>

Q 法音寺

検索

スマートフォン・タブレット端末対応！

右のQRコードからもアクセスできます ▶▶▶



The screenshot shows the homepage of the Houonji website. At the top, there is a navigation bar with the site name '日蓮宗 大乗山 法音寺' and a search icon. Below the navigation bar, there is a main banner area with a background image of children praying. The banner contains the text '大乗山 法音寺' and '一人から始まる。 今日一日から始まる。'. Below the banner, there are several content blocks: a section titled '大乗山法音寺とは' with a description of the temple's history and mission, a section for '月刊 法音' (Monthly Houonji magazine), and a section for '経本・書籍' (Sutra and books). The footer of the page shows the date '平成29年1月11日'.

※リニューアルに伴うURLの変更や廃止により、一部のページが見られなくなったり、リンク切れが発生することがあります。
この場合は、サイトマップページで該当の情報をお探しいただくか、サイト内のキーワード検索をお試しください。

福祉の ひろば

二〇二〇子育てく保育の現場からく③

〔1歳児の子育て〕

赤ちゃんの誕生から一年が経つと、お誕生日をお祝いする言葉とともに、ご両親にも「お父さん、お母さんとなり1歳のお誕生日、おめでとございます」とお声掛けさせていただいています。赤ちゃんが生まれ、1歳になるまで子育てに迷いや悩みを抱えながらも、子どもの重ねた年齢分、親としても年数を重ね、次第に新米の親からベテランの親になっていきます。今回は1歳のお子さんのお育てについてご紹介いたします。

出産から一年間、お母さんは昼夜の授乳や夜泣きで眠れない日を過ごすことも多いでしょうが、1歳を迎える頃になると、夜まとまって眠るリズムもできてきます。

1歳を過ぎると、赤ちゃんの体重や身長が増加がゆるやかになり、次第にほっそりした幼児体型になります。すっかり歩く子もいれば、ハイハイや伝い歩きからなかなか一歩が出ない子、言葉も「マンマ」「ワンワン」などと話す子もいれば、「あーうー」と喃語（なんご）を繰り返す子とさまざまです。公園等で同じ年齢の他のお子さんの様子を見て、心配になることが多い時期ではないかと思いますが、特に言葉の発達は個人差が大きいですから、ゆっくりでもあまり焦らず、見守ってあげてください。少しずつ、大人が話す言葉の理解も進んでいきます。食事中に「人参おいしね」「いっぱい食べたね」等、その場の状況や物の名前などを語りかけながら、丁寧にふれあいを重ねていくとよいでしょう。

さまざまなこと、自分でやってみたいという気持ちが増え、頭でわかっている、それをうまく言葉として伝えることができないため、かんしゃくを起こし「イヤイヤ」することも増えてきます。親にとっては、子どもが泣いたり、かんしゃくを起こしたりするのを見ているのは辛いことですが「心が成長してきている証拠」とおおらかに受けとめてあげてください。

立って歩けるようになる、今まで見ていた視線が高くなり、興味津々、探索活動が始まります。子どもはどこにでも行ってしまおうので目が離せなくなり、少し目を放したすきに起こる事故も増えてきます。

特に気をつけたいのがお風呂の残り湯です。湯船に落ちて溺れてしまうケースがあります。また、足をかけて少し高い場所にも上がれるようにもなりますので、高い場所からの落下にも十分に気をつけたいものです。大人から見れば、いたずらにしか見えなくても、子どもにとっては、知りたい、さわりたい、という好奇心と挑戦しようとする意欲が育つ時期です。事故やケガが起きない程度に、のびのびとさまざまな経験をさせてあげてください。子どもに自由な経験をさせな

いまま、「これはだめ、汚い、危ない」と教えこんでしまうと、子どもは経験することなく成長してしまい、今後の育ちの中で、初めての経験に抵抗し、興味や関心の幅が狭まっていくように思います。子どもは体験することで、心も体も育っていきますので、子どものうしろからそっと見守ってあげ、危ないと思ったら、手を差し延べてあげるとよいと思います。

1歳を過ぎると、母乳やミルクから離乳食に切り替わり、食事から栄養を摂取するようになります。

卒乳の頃合いについて、相談が多く寄せられます。水分補給がストローやコップを使ってできるようになり、離乳食が進めば、母乳を終える準備ができたというのですが、まだまだお母さんに甘えたい頃でもありますので、お子さんの様子を見て、あまり焦らずに時期を決めていくとよいと思います。おっぱいの卒業はお母さんにとっても寂しいことかもしれませんが、お父さんお母さんとだけの人間関係から、周囲との関係を広げようとする第一歩と喜んでください。そして、意識的にさまざまな人とふれあう機会を持つとよいでしょう。

(T・T)

福祉に 生きる



社会福祉法人 昭徳会

駒方保育園・光徳保育園・天王保育園の実践

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。

鈴木修学先生が築き上げた福祉の

新たな未来を切り開くために…

保育の基本姿勢である先生の教えを忘れません

駒方保育園 保育士 村上 敦子

この本を読んで、生活に困っている人々を助け、幸せになってもらおうとする修学先生のエネルギーに圧倒されました。このエネルギーの根源は杉山辰子先生の教えをひたすら実行することであり、修学先生の人生はここに尽きると感じました。

生の松原で、修学先生は施設の実情に驚きながらも改善に取り組みます。修学先生は、杉山先生の教えを守り、ハンセン病に対する当時の差別や偏見の狭間で苦しみ闘いながらも、自らの信念を貫かれました。そして、この経験から得た3つの教訓の中の「窮すれば通ず」という言葉に胸を打たれました。真心を持って仕事に打ち込んでいる先輩方が多くいます。私もお互いに認め合い助け合う昭徳会の一員として、この言葉を大切に胸に刻んで

おきたいと思いました。

臥竜山での農業指導では、修学先生は罪を犯した少年達とともに苦勞されました。農業に勤しむことで少年達は本来の人間性を取り戻し、自信を持って社会に復帰していくことができました。「人間も心の耕作を怠らなければ必ず善い人になれる」という言葉は、私が従事している保育にもつながる考え方です。〳〵心の耕作〳〵を子どもとともにしていくのが、保育なのだと思います。生まれたての赤ちゃんはまだ「ヒト」です。「ヒト」は大人の愛情で「人間」になり、大人が正しい方向に導くことで良い人格が形成されていく。私はこの人間の一番大切な時期を生きる子どもと関わり、多くの愛情を注ぎ、子どもが自信を持って次の社会へ進んでいけるように責任を持って見守っていききたいと思いました。

昨今はさまざまな理由で心が傷ついている子どもが多くなります。〳〵すべての人々が平等に幸せを得ることができると〳〵という心を持って、すべての子どもの心に寄り添い共感していききたいです。

昭徳会の保育士として、子ども達に対して「さん」と名前を呼ぶように、良い言葉を使って話し、友達を尊重し合う保育をするということはとても重要だと思います。子どもの頃から友達を尊重することは、今後出会うさま

ざまな考え方や、障がいを持つ人の受け入れにもつながり、共存社会の実現により近づくと思うからです。また、叱ることを避け、子どもの良いところを早く見つけてほめるという教育も、自己肯定感を育てることになり、子どもは自信を持って生きていくことができるようになります。そして叱る前にほめ、ほめた後で正しい方向を教えることで、子どもの存在を否定しないようにしたいです。

修学先生の教えは保育の基本姿勢であることを忘れずに、どの子どもも「最愛の児」であることを頭に置いて、保育をしていききたいです。

親切を心掛け、人間性を高めます

光徳保育園 保育士 水野 雛

この本を読んでまず思ったことは、鈴木修学先生はいつなるときも自分の幸せよりも周りの人の幸せを考えることのできる、すばらしい人だということです。この本の中にはたくさん心に響く言葉がありました。

一つは「幸せの種とは法華経の教えを実行することで」という言葉で、〳〵自分自身の幸せは周りの人々を幸せにすることで得ることができる〳〵という意味です。こ

や場面がいくつかありました。

まず一つ目は、「あなたには、あなたでなければできない大切な役割があります」という言葉です。私はこの言葉から、不必要な人は一人もおらず、一人ひとりが大切な存在なのだと感じました。自分にしかできない役割を探したいと思います。

二つ目は「幸せになりたければ、幸せの種をまくことが必要です」という言葉です。何をするにもまずは自分が行動をしなければいけないと感じました。人に何かを言う前に自分が行動で示していきける人になりたいです。

「手助けをすることが幸せの種まきだ」ともありました。困っている人を見たら助けられる人になりたいです。

三つ目は、当時のハンセン病の患者さんを説明する「人々の無理解による偏見と差別に苦しめられ、言うに言えない悲惨な現実を生きていたのです」という文です。理解をしていない人に好き勝手に言われ、言うに言えない苦境に追いやられた患者さんを本当に気の毒に思いました。何も知らずに偏見の目で見えるのではなく、そのことについて知ろうとすることが大切だと思いました。

四つ目は、修学上人が失言によって患者さんの心を傷つけたことを悔やみ、自分の宝物を質屋に持っていく場面です。自分の大切な宝物を売って、この先どうなるか

わからない患者さんのために行動したのは、本当にすごいなと思いました。自分を第一に考えるのではなく、患者さんのことを一番に考えているのがすばらしいと思いました。私も子ども達のことを一番に考え、一生懸命考えて丁寧に関わっていきたいなと思いました。

五つ目は「人間も心の耕作を怠らなければ必ず善い人になれる。逆に言えば、せっかく良い田畑があっても耕作を怠れば、あつという間に荒れてしまう。人も同じように、日々の耕作を怠ると心は荒れ、ねじ曲がった人間ができてしまう。君達も、心の耕作を怠らなければ、きっと世間に認めてもらえるようになる。信用もしてもらえるようになる。心を育て、世の中になくってはならない人間になろうじゃないか」という言葉です。日々の関わり大切さをこの言葉から感じました。私は四月から保育士になり、たくさんの子ども達と関わるようになりました。日々の関わりを大切に丁寧に行うことで、子ども達の心の耕作を少しでもできたらなと思います。

私はこの本を読んで良かったなと思っています。自分が保育士になり、大切にしよう、こうでできるようにしようという目標も見つかりました。今は日々を送るだけで精一杯なところもありますが、少しづつでも余裕をもって行動し、自分の目標に近づけるよう努力していきたい

です。

子ども達に三徳の大切さを伝えたい

光徳保育園 保育士 入山 千里

この本を読んで、研修で学んだことを振り返りながら、修学先生の生き方や考え方を知ることができました。その中で私が大切な考え方だと思ったことが二つあります。一つ目は「慈悲・至誠・堪忍」の三徳を理解するだけでなく、生活に応用し実行することの大切さです。私は保育をしていく上でもこの三徳がとても重要だと思いました。三徳を保育士の立場から考えて「慈悲」を、子どもの気持ちを理解し、他人を思いやる心。「至誠」を、集団で助け合い生活し、思いやりの心を持ち続けること。「堪忍」を、悪いことは悪いと認め、ごめんなさいや許せる心を持つことだと感じました。この三徳を幼い頃から身につけていくことで、子ども達は素直で優しい子に育っていくのではないのでしょうか。私は子ども達に他人を思いやる気持ちや他人と協力し合うことの大切さ等を、幼児期のうちに学んでいってほしいと思っています。そのため、三徳の考えに深く共感しました。

二つ目は、「一つのことを教えようと思ったら、五つ

ぐらいほめてあげることが必要です。子どもをほめるためには、子どもの一日の生活を温かく、しっかりと見守る姿勢を身につけなければなりません」という文です。

これは保育士として、保育の基本的な考えとして、とても大切だと感じました。人は誰でもほめられるととてもうれしいし、その行いに自信が持てるようになっていくと思います。子どもに一つのことを教えていこうとする時、途中で叱ってしまうこともあります。しかし、ほめることを忘れず行っていくと、子ども達も嫌がることなく、良い気持ちで学んでいけるのかなと思いました。この五つほめることも、子どもの日常の姿を見守っていないとできないことだと思います。子ども達の意欲的な姿勢が、教え、ほめ、見守りができることにつながると思っています。子ども達には五感を使い、たくさんのかたちを学んでほしい。だからこそ、子ども達の自分で取り組もうとする姿勢や、多くのことを学ぼうとする姿勢を温かく見守りたいと思っています。

最後に、修学先生がこの福祉の道に進んだのは、自分の人生を見つめ直したことがきっかけでした。このことから私は、一度自分を見つめ直し、今後どのように人生を歩むべきなのか考えることも大切だと感じました。私の場合、保育者の道を歩み始めた今、保育士として、ま

た社会人として自分の行いに責任が持てるよう人生を歩んでいきたいと思いました。修学先生が杉山先生と出会い学ばれたように、私も自分の考えだけでなく、他人の意見も尊重し、たくさんのことを身につけていきたいと思いました。大切なことを世の中に伝えてくれた修学先生の考えを、福祉に携わる仕事の中で活かしていきたいと思いました。

保育に三徳を活かしていきます

天王保育園 保育士 山口 美幸

この本を読んで鈴木修学先生の生い立ちと現在の昭徳会がある理由、そして修学先生がどれだけ思いやりの気持ちを持った優しい人物であったのがよくわかりました。

物やお金がない時代にもかかわらず、自分を犠牲にしてまで困っている人を助ける修学先生は本当にすごい人だと思いました。そして、修学先生が率先してよく働くことで、周りの人々も信頼してついていくようになることから、行動力があり、周りの人々のことをいつも考えていたのだと気づくことができました。

現在の昭徳会は修学先生をはじめとするさまざまな人

々の努力や願いがあり、それを引き継いで教えを守ろうとしているのだと思いました。特に、昭徳会が大切にしている法華経の三徳である「慈悲・至誠・堪忍」は、社会福祉にとってとても大切なものだと感じる事ができました。

私は保育士としてこの三徳がどのように保育に当てはまるか考えてみました。まず「慈悲」は人々の憂い、悲しみを自分のこととして受け止め、自らの喜びを他人に分ける優しさの心のことです。これは子どもの悲しみや不安だけでなく楽しい、うれしい気持ちを受け止めることではないかと思いました。その思いを受け止め、保育者として気持ちを共有し援助していくことだと思いました。

次に「至誠」は間違った行いや悪い心を退け、世のため人のために自らを役立て、優しさをたゆみなく持ち続ける心のことです。つまり真心を持つことだと思いました。保育者自身が誠意を持って子どもと保護者、職員と関わることでより良い保育園になるのではないかと考えました。逆に不誠実な態度で関われば、信頼も築けず良い保育もすることができなくなりそうです。真心を持って人と関われば自分の気持ちも相手に届き、人の行動や気持ちも変えることができるのではないかと思いました。

最後に「堪忍」は腹を立てず、恨みや怒りを捨て去り、理不尽な出来事からも逃げ出さず、他人を許す広い心のことです。これは子どもに対して怒らず、たくさんほめてしっかり向き合うことではないかと考えました。人間なので腹の立つこともあると思いますが、余裕を持った広い心で関わろうとする意識を忘れずに、保育していくことが大切だと思います。子どもだけでなく保護者に対して、広い心で労いの気持ちを持って話を聴き、共感してたくさんほめることも必要だと思います。

この三徳の実践は、とてもむずかしいことだと思います。しかし、三徳を意識して努力することはできると思っています。今の私にはむずかしいことですが、少しずつ実践できるように努力していきたいと思いました。また、三徳は昭徳会の活動の基本方針にもつながることだと思います。一人ひとりの子どもや保護者を大切に、これからも援助技術の向上に努め、より良い保育ができるように教えを守っていききたいです。

子どもを温かく見守り、ほめて育てます

天王保育園 保育士 梶原 千遥

私はこの本を読んで、今の自分を見つめ直すことがで

きました。

「せっかく良い田畑があっても耕作を怠れば、あつという間に荒れてしまう。人も同じように、日々の耕作を怠ると心は荒れ、ねじ曲がった人間ができてしまう。君達も、心の耕作を怠らなければ、きつと世間に認めてもらえるようになる。信用してもらえないようになる。心を育て、世の中になくってはならない人間になろうじゃないか」という文章を読むと同時に、頭の中で自然と今の自分の環境に置き換えていました。「良い田畑」は「配属先」になり、「耕作」は「学び」や「努力」になりました。

そして「世間」という言葉は「利用者」や「職員」など、働く上で関わるすべての人に置き換えられていました。良い配属先に入ることができたとしても、毎日をただ過ごしてしまうことで学ぶ機会を逃がしてはいけなさと改めて感じました。学ぶことを大切に、自分自身の成長につなげていくことが今の私に必要なと思いました。そして、学びを深めることで身につく知識や技術を増やしていくことで、利用者や周りの職員からの信用になるのだと感じました。

信用がない限りは信頼されることもないと思うため、人と関わる時に大切になる信頼についても修学先生の言葉によって見つめ直すことができました。

もう一つ、私の中で心に残り、実行していかなければならぬと思つた修学先生の言葉があります。「一つのことを教えようと思つたら、五つくらいほめてあげる必要です。五つほめて一つ教える、この心構えを覚えておいてください。子どもをほめてやるためには、子どもの一日の生活を温かく、そしてしっかりと見守る姿勢を身につけねばなりません」

この修学先生の言葉は、本を読んでいて思わずうなずいてしまうほど納得でき、子ども達と過ごす際に大切にすべきことだと思ひました。ほめることで人はその人の話を受け入れやすくなります。「ほめて育てる」指導法は子どもだけでなく、多くの人にも通用すると感じました。

修学先生の言葉にもあるように、ほめるためにはその人の生活を温かく、しっかりと見守ることが大切です。「子どものこと、しっかりと見ていてね」という先輩職員からの言葉の理由は怪我や事故の防止だけでなく、このような理由もあるということを感じることができました。この本を読み、今の自分のあり方は子どものためにな

っているのか考えることができました。福祉を築いてきた方々の強い思いを引き継ぎ、これからの保育に活かしていきたいと思ひます。

.....

駒方保育園

- 愛知県名古屋市昭和区駒方町3-1
- 定員120名 ●職員 正職員21名、パート職員8名

光徳保育園

- 愛知県安城市御幸本町6-17
- 定員80名 ●職員 正職員16名、パート職員12名

天王保育園

- 愛知県みよし市三好町天王51-20
- 定員160名 ●職員 正職員22名、パート職員13名

- 保育士（児童福祉分野）≡児童福祉施設において児童の保育を行う者。保育士の資格が必要。
-

※本稿は平成28年9月にいただきました。（掲載順不同）

『日本の福祉を築いたお坊さん』 日本福祉大学を創つた鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・1600頁・8000円（税別）本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

「第9回福祉セミナー」を開催!

社会福祉法人 昭徳会



写真提供・昭徳会

6月24日(土)に法音寺開山堂にて第9回福祉セミナーが行われました。

オープニングセレモニーでは、知的障がい児施設・小原学園の子ども達による和太鼓演奏があり、迫力ある太鼓の音色が開山堂全体に響き、参加者の皆さんの気概も一気に高まるのを感じられました。

熱気に満ちた雰囲気の中、各分野の代表施設(児童分野から天王保育園、障がい者分野から泰山寮、高齢者分野から特別養護老人ホーム安立荘)がそれぞれ実践発表しました。

天王保育園は「わくわく笑顔さがしてみよう」と題し、自園の魅力をどう伝えるか?言葉で伝えることのむずかしさを、研修を通してレベルアップをめざしたことや、保育園周辺のお散歩マップを作成し、地域の方々に伝える取り組みなどを発表しました。

泰山寮は「幸福の実現をめざそう」と題し、伝統的な遊びのカルタに着目し、利用者さん

や業務の内容を見直していくものでした。障がい者虐待防止権利擁護、栄養健康、保健衛生、防災、職員の行動指針実践とさまざまなジャンルのカルタを作成し、カルタを通して地域交流や社会貢献をしていくという内容でした。

安立荘は「みんなの安全守ります」と題し、厨房の危険箇所を改善していくというものでした。衛生面、フードカッター、生食用野菜の消毒、加熱した食品の温度管理などを見直し、安全でおいしい食事を提供するということでした。作業手順が増えたにもかかわらず、効率良く行う工夫をし、さらに時間短縮ができたことには驚かされました。

各施設ともすばらしく興味深い内容ばかりでした。

特別講演は、人材教育家の井垣利英氏を迎え、「人間力を磨く」〜いきいきとした人生

を送るために〜というテーマで講演をしていただきました。「他人と比較しても仕方がない」「人は幸せになるために生まれてきた」と言われ、「人生・仕事結果 \parallel 考え方 \times 熱意 \times 能力」という方程式を教えてくださいました。考え方は、マイナス100 \sim プラス100の範囲、熱意と能力は0 \sim 100までの範囲があり、いくら熱意と能力が高くても、考え方がマイナスであれば答えはマイナスになってしまふということでした。

「考え方をプラスにするためには、プラスの言葉を使う。楽しい言葉が楽しい人生になる」と言われ、そして最もプラスのエネルギーマーが強い言葉が「ありがとう」という言葉であるというお話しでした。「ありがとう」という身近な言葉を改めて大切にしたいと思いました。

福祉セミナー実行委員長 保育所・駒方保育園

グループリーダー（保育士） 青山昌和

日本福祉大学 「ふくし減災」研究の拠点を設置

減災支援教育研究センター

「減災」という言葉を目にする機会が増えていきます。自然災害の発生は防ぐことはできず、被害が出ることを前提として事前に備えることによって、少しでも被害が少なくなるように、対応策を考えていくことを言います。

本学は、今年の4月美浜キャンパスに「減災支援教育研究センター」を開設しました。

本学では、東日本大震災以降、大規模災害が起きた際には、災害ボランティアセンターを中心に、同窓生や関係機関と連携して被災地への支援に取り組んできました。

被災地の事例に学び、知多半島で災害が起きた場合はどうするのか、キャンパスのある各自自治体と防災協定を結び、年に一度、近隣の方々にも参加いただいて、防災訓練などにも取り組んでいます。

あわせて、災害時に医療職と連携して福祉専門職がどのような役割を果たすべきなのか、また、大学として人材派遣の要請にどう応えていくのかなど、「ふく

し」の総合大学」として、果たすべき役割についても議論を重ねてきました。

こういったこれまでの本学の実績をふまえ、このセンターでは、減災の取り組みや人材育成についてさらに研究をすすめる、関係機関と連携して、今後さまざまな事業を推進していく予定です。

ここでは、藤田保健衛生大学との共同研究事業をご紹介します。藤田保健衛生大学とは、2015年に連携協定を結び、災害時の医療と福祉の連携に関わる課題について、共同で研究を進めてきました。今年の4月からは、福祉ニーズを持つ人々の被災状況をいち早く集約し、迅速な支援につなげていくための『災害救急医療・福祉情報システム』の共同開発に取り組んでいます。大学以外では、愛知県半田市やシステム開発を行う企業（インフォコム・本社東京）も加わっています。

災害時の救急医療支援では、命に関わる重症患者が最優先されることはあたりまえですが、一方で介護が



写真提供・日本福祉大学

必要な高齢者や障がい者への対応が後回しとなり、その結果、病状の悪化を招き、災害関連死につながっている深刻なケースが、数多くあがってきています。必要な支援が早く届いていれば、救えた命、災害後も元気に過ごせたはずの方々がたくさんいらっしやいます。情報が錯綜する災害時に、被災した高齢者や障がい者の状況をいち早く集約して、必要な支援を一刻も早く届ける重要性が叫ばれています。

そのために、災害が起きた時にはITを活用して、高齢者や障がい者が身を寄せる避難所の状況（インフラの破損・不足物資、健康状態）を集約しながら、速やかに、行政・医療機関・各福祉施設が情報共有し、支援ができる体制づくりが必要不可欠です。今年はそのシステムの試作や試験が中心となりますが、来年は半田市をモデルケースにして運用し、将来的には他の地域にも取り組みを広げたいと考えています。

本学は、キャンパスのある知多半島内の自治体だけでなく、友好協力宣言を行っている県外6つの自治体、昭徳会をはじめとする全国14の提携社会福祉法人とも、防災協力協定を締結しています。それらの提携先とも連携して事業をすすめる、「ふくし減災」研究の拠点として発信をしていきます。

幸せの種まきⅡ一人が一人を

今ないものを不足に思うより あるものに感謝しましょう

普段何でもないこともよく考えてみると、
ありがたいことばかりです。

大乗山 法音寺

編集後記

「ブスつとしているからブスになるんです。笑顔は顔立ちを越えます」「考え方、言葉、行動のすべてをプラスにしましょう」「自分の環境に感謝しましょう」「他人の幸せを一緒に喜び、愚痴を言わないようにしましょう」「ほめられた人は幸せを感じる脳のホルモンが30%アップし、ほめた人は70%アップします」「ありがとうを増量しましょう」

先日の昭徳会の福祉セミナーで講演をしてくださった人材教育家の井垣利英さんのお言葉です。すばらしく巧みな話術で講演の1時間半があつという間に感じられました。

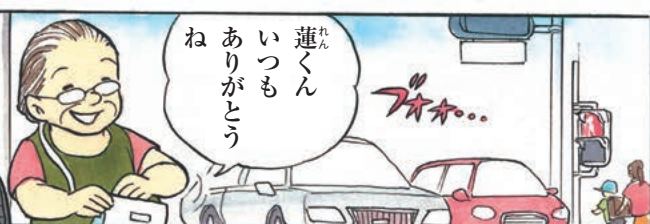
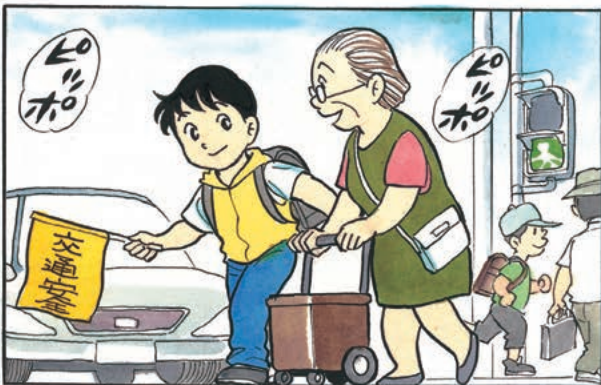
『法音』読者の皆さんは、すでにお気づきになっていると思いますが、これらはお寺でもよく耳にする言葉です。人が幸せになるために何が必要かを追い求めていくと、共通の要素にたどり着くということなのでしよう。「三毒(貪・瞋・痴)を慎み、三徳(慈悲・至誠・堪忍)を実行すること」は幸せになるための真理なのだと思わされます。同時に日々実行することがいかにむずかしいかも…。

今を幸せに生きるという目的において「信仰」と「自己啓発」が大いに重複するからといって、決してイコールの関係ではありません。「人は幸せになるために生まれてきた」という考え方も、信仰の世界では「過去世からの罪障を取るために」という観点が加わります。決定的に異なるのは、目に見えない「仏さま」が介在するかどうか。

「誰も見ていなくても、仏さまが必ずご覧になっているから」という価値観が行動の指針になるのが信仰。いずれにせよ、法音寺での信仰が幸せに直結することが実証されたと確信できた一日でした。

うわさ

竹中 淳





いつもここで会う
おばあちゃんだよ
足が痛いし、すぐに赤に
なっちゃうから横断歩道
渡れないんだ

今のだれ？

おーい
蓮！

ヒヒッ
じゃあね



ねえねえ
あの子よ
お年寄りに
親切にして
お金を
もらってるん
だって！

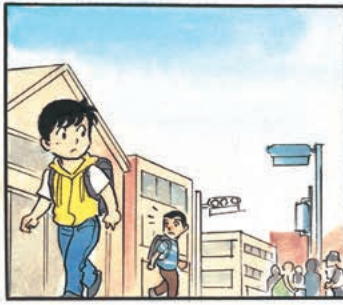
えー
うっそー



おばあさんを
待ってて
お金や
お菓子を
ねだるんだって

ひどい
わねー











体調が悪いからって朝連絡があったわ

蓮くん休み？
めずらしいな



熱はないようね

どうする？
学校…
電話しとくけど



いつもならもう来てるのにねえ



帰りに 私たち蓮くんちに行くけどタケルくんも行くでしょ？

オ、オレ！
今日は行けねえよ



そうだからいくら待っても来ませんよ

蓮くんなら体調が悪くて今日学校休んでるの



あの、蓮くんになにか用ですか？

蓮くんおそいわね…



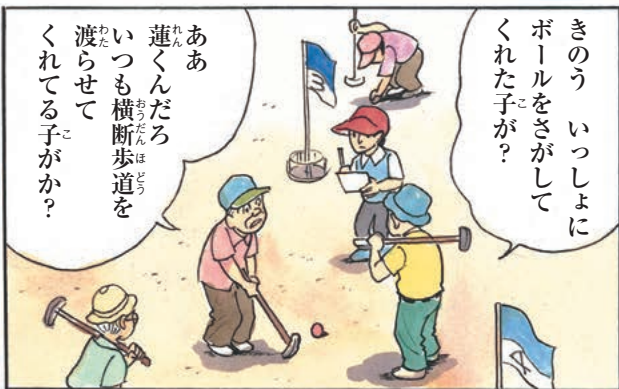
学校を休んだんだって？
大丈夫やるか…

心配じゃね



ねえ体調が悪いんだって…

そりゃかわいそうにな…

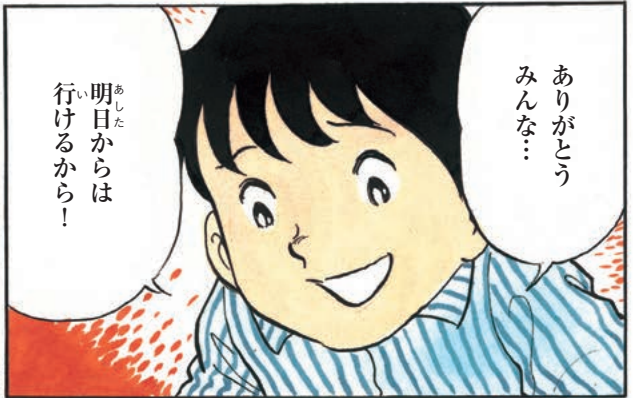
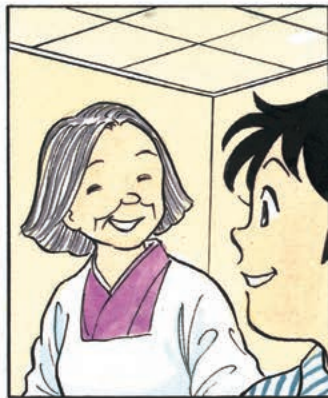




蓮くん！
大丈夫かあ

うちでとれた
野菜食べて
早くよくなれよう！

蓮くんちに
行くっていったら
みんながお見舞いに
行くってきかないのよ



ありがとう
みんな…

あした
明日からは
行けるから！



なんで今日は
だれも来ない
んだ？！

なんだい！
蓮のかわりを
やってやろうと
思ったのに！



おしまい

法音寺関連書籍のご案内

青山書院刊

東京都杉並区西荻北5-4-1

妙法蓮華経略義 鈴木修学 著

A5版上製・863頁・定価6,000円（税込）

無量義経略義 鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円（税込）

仏説観普賢菩薩行法経略義

鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円（税込）

撰法華経略義 鈴木修学 著

A6版皮製・101頁・定価700円（税込）

仏教聖語の解説 鈴木修学 著

B6版・230頁・定価1,800円（税込）

道徳と宗教 鈴木修学 著

B6版・209頁・定価1,000円（税込）

教育まんが

B5判 平均64頁 定価各600円（税込）

八正道の話 因縁の話 菩薩行の話
功德の話 お彼岸のはなし 十界の話
十王の話 定価1,000円（税込）

— その他多数。お問い合わせください。

山喜房佛書林刊

東京都文京区本郷5-28-5

鈴木修学先生の南無妙法蓮華経

浅井圓道 著

四六版上製・202頁・定価1,600円（税別）

大乘山法音寺三徳開教百年史

(1) 安立大法尼の時代

A5版・490頁・定価4,000円（税別）

(2) 宗玄大徳の時代

A5版・516頁・定価4,000円（税別）

(3) 御開山上人の時代

A5版・628頁・定価6,000円（税別）

(4) 第二世日達上人の時代

A5版・714頁・定価7,000円（税別）

(別巻) 仏教感化救済会の信仰

A5版・272頁・定価3,000円（税別）

中央法規出版刊

東京都台東区台東3-29-1

福祉を築く —鈴木修学の信仰と福祉—

西山茂・秦安雄・宇治谷義雄 共著

A5版・224頁・定価3,200円（税別）

日本の福祉を築いたお坊さん

星野貞一郎 著

新書版・160頁・定価800円（税別）

※本書の著者印税のすべては、著者のご意志により

「あしなが育英会」に寄付されることになっております。

まんが・法音寺物語

法音寺広報委員会 企画

上＝安立大法尼の時代

中＝宗玄大徳の時代

下＝御開山上人の時代

B5版・96頁総カラー・定価各巻1,000円（税別）

仏教タイムス社刊

東京都新宿区市谷町2-7

大乘山法音寺の信仰と福祉

西山茂・小野文瑠・清水海隆 共著

A5版・205頁・定価3,200円（税別）

凡夫を菩薩に転ずる僧伽

仏教タイムス編集部

A5版・132頁・定価800円（税込）

大乘山法音寺の源流と近現代仏教福祉

浜島典彦・清水海隆 共著

A5版・60頁・頒価500円（税込）

お問い合わせは法音寺事務局、又は各支院・
布教所にどうぞ…



自説誓言

一人を導く功德は広大です
是非一人は導きましょう

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分



法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭 徳 会

■児童養護施設

駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘
高浜立庄
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム高浜安立

■自立援助ホーム

慈泉寮

■保育所

駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp



法音・平成29年8月号・No.574・平成29年8月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社